

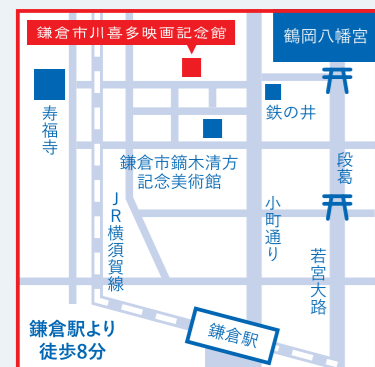
SCREENING SCHEDULE

6月	30 (火)		14:00	さらば愛しきアウトロー(93分)		
	1 (水)		14:00	ミステリー・トレイン(110分)		
	2 (木)		14:00	さらば愛しきアウトロー(93分)		
	3 (金)		14:00	ミステリー・トレイン(110分)		
	4 (土)	10:30	ミステリー・トレイン(110分)	14:00	さらば愛しきアウトロー(93分)	
	5 (日)	10:30	さらば愛しきアウトロー(93分)	14:00	ミステリー・トレイン(110分)+上映解説	
	7月	14 (火)	10:30	天国の日々(94分)	14:00	タクシードライバー(114分)
		15 (水)		14:00	天国の日々(94分)	
		16 (木)		14:00	タクシードライバー(114分)	
		17 (金)		14:00	天国の日々(94分)	
18 (土)		10:30	天国の日々(94分)	14:00	タクシードライバー(114分)	
19 (日)		10:30	タクシードライバー(114分)	14:00	トークイベント「トランプ時代とアメリカ映画の行方」*1	
20 (月・祝)		10:30	シェフ ミツ星フードトラック始めました(115分)	14:00	フロリダ・プロジェクト 真夏の魔法(112分)	
21 (火)			休館日			
22 (水)		10:30	スポットライト 世紀のスcoop(128分)	14:00	シェフ ミツ星フードトラック始めました(115分)	
23 (木)		10:30	フロリダ・プロジェクト 真夏の魔法(112分)	14:00	スポットライト 世紀のスcoop(128分)	
24 (金)	10:30	シェフ ミツ星フードトラック始めました(115分)	14:00	フロリダ・プロジェクト 真夏の魔法(112分)		
25 (土)	10:30	スポットライト 世紀のスcoop(128分)	14:00	シェフ ミツ星フードトラック始めました(115分)		
26 (日)	10:30	フロリダ・プロジェクト 真夏の魔法(112分)	14:00	スポットライト 世紀のスcoop(128分)		
8月	1 (土)	10:30	WANDA ワンダ(103分)	14:00	特別上映 アメリカの影(82分)+トーク*2	
	2 (日)	10:30	ジャグラー ニューヨーク25時(101分)	14:00	WANDA ワンダ(103分)	
	3 (月)		休館日			
	4 (火)	10:30	アメリカの影(82分)	14:00	ジャグラー ニューヨーク25時(101分)	
	5 (水)	10:30	アメリカの影(82分)	14:00	WANDA ワンダ(103分)	
	6 (木)			14:00	ジャグラー ニューヨーク25時(101分)	
	7 (金)	10:30	WANDA ワンダ(103分)	14:00	アメリカの影(82分)	
	8 (土)	10:30	ジャグラー ニューヨーク25時(101分)	14:00	WANDA ワンダ(103分)+上映解説	
	9 (日)	10:30	アメリカの影(82分)	14:00	ジャグラー ニューヨーク25時(101分)	
	10 (月)		休館日			
鎌倉へいわ映画祭 2026	11 (火・祝)	10:30	島守の塔(130分)	14:00	摩文仁(97分)	
	12 (水)	10:30	黒い雨(123分)	14:00	夕風の街 桜の国(118分)+映画談話室	
	13 (木)	10:30	黒い雨(123分)	14:00	島守の塔(130分)	
	14 (金)	10:30	夕風の街 桜の国(118分)	14:00	黒い雨(123分)	
	15 (土)	10:30	夕風の街 桜の国(118分)	14:00	黒い雨(123分)	
	16 (日)	10:30	摩文仁(97分)	14:00	島守の塔(130分)	
	アメリカン・シネマの道しるべ	25 (火)	10:30	羊たちの沈黙(119分)	14:00	シビル・ウォー アメリカ最後の日(109分)
26 (水)		10:30	30年後の同窓会(125分)	14:00	羊たちの沈黙(119分)	
27 (木)		10:30	シビル・ウォー アメリカ最後の日(109分)	14:00	30年後の同窓会(125分)	
28 (金)		10:30	羊たちの沈黙(119分)	14:00	シビル・ウォー アメリカ最後の日(109分)	
29 (土)		10:30	30年後の同窓会(125分)	14:00	羊たちの沈黙(119分)+上映解説	
30 (日)		10:30	シビル・ウォー アメリカ最後の日(109分)	14:00	30年後の同窓会(125分)	

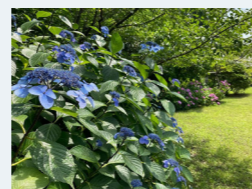
ギャラリートーク／上映解説 要企画展観覧料／各40分
展示の見どころ／上映作品について、学芸員が解説します。

ギャラリートーク **上映解説** 下記作品の上映終了後
7.25(土) 8.29(土) 各日13:00~ **7.5(日)**『ミステリー・トレイン』
終了後、希望者のみ旧和辻邸見学ツアーあり **8.8(土)**『WANDA ワンダ』
(約10分) **8.29(土)**『羊たちの沈黙』

*1「トランプ時代とアメリカ映画の行方——人種、ジェンダー、記憶、越境をめぐる想像力」鈴木透さん（慶應義塾大学法学部教授）
*2「アートハウス映画もポップコーンムービーもより楽しむために」鈴木里実さん（Stranger番組編成）×降矢聡さん（グッチーズ・フリースクール主宰）



Kamakura City Kawakita Film Museum
鎌倉市川喜多映画記念館
〒248-0005 神奈川県鎌倉市雪ノ下2-2-12
0467-23-2500
開館時間：9:00~17:00（入館は16:30まで）
休館：月曜日(7.20は開館)、7.21(火)
主催：川喜多・KBSグループ(鎌倉市川喜多映画記念館指定管理者)
※駐車設備がありませんので、公共交通機関をご利用ください。
※席数、入館時間等は状況により変更する場合がございます。
詳しくはお問合せください。
<https://kamakura-kawakita.org>



紫陽花が咲く記念館を巡る展示解説ツアー
紫陽花が咲く当館と鎌倉市鍋木清方記念美術館を巡る展示解説ツアーです。
旧和辻邸もご案内します。(予約不要)
日時：6.26(金) 13:30~
集合場所：鎌倉市鍋木清方記念美術館
料金：各館の展示観覧料

A Journey Through American Cinema

鎌倉市川喜多映画記念館

企画展

アメリカン・シネマの道しるべ

2026.6.20 SAT. → 8.30 SUN.

企画展観覧料
一般：300(210)円
小・中学生：150(100)円
*()内は20名以上の団体料金



さらば愛しきアウトロー

7.5(日) 10:30
6.30(火)、7.2(木)、4(土) 14:00

2018年/カラー/93分/DCP 監督:デヴィッド・ロウリー 出演:ロバート・レッドフォード、ケイシー・アフレック、シシー・スペイセク、ダニー・グローヴァー

誰も傷つけないことを信条に、華麗な手口で銀行強盗を繰り返した実在の紳士フォレスト・タッカーにレッドフォードが扮する。彼がこれまでに演じた数々のアウトローを彷彿させる魅力的なキャラクターで、最後の主演作として花道を飾った。



タクシードライバー

7.19(日) 10:30
7.14(火)、16(木)、18(土) 14:00

1976年/カラー/114分/35mm 監督:マーティン・スコセッジ 脚本:ポール・シュレイダー 出演:ロバート・デ・ニーロ、シビル・シェパード、ジョディ・フォスター

夜の街をタクシーで流しながら、鬱屈した気持ちで社会の不条理に怒りを募らせるベトナム帰還兵トラヴィス。鏡に向かって「俺に言っているのか?」と凄んでみせる孤独な男をデ・ニーロが熱演。タクシー運転手の目を通して大都市NYの闇を描く。



シェフ

7.20(月・祝)、24(金) 10:30
7.22(水)、25(土) 14:00

2014年/カラー/115分/DCP 監督:ジョン・ファヴロー 出演:ジョン・ファヴロー、ソフィア・ベルガラ、ジョン・レグイザモ、エムジェイ・アンソニー、スカーレット・ヨハンソン、ダスティン・ホフマン、ロバート・ダウニー・Jr.、オリヴァー・プラット

ロサンゼルスにある一流レストランをクビになったシェフが、心機一転、キューバンサンドの移動販売を始めて再起をはかり、自らの誇りと家族との絆を取り戻してゆく姿を描く。



ミステリー・トレイン

7.4(土) 10:30
7.1(水)、3(金)、5(日) 14:00

1989年/カラー/110分/DCP 監督:ジム・ジャームッシュ 出演:工藤夕貴、永瀬正敏、スクリーミン・ジェイ・ホーキンス、ジョー・ストラマー、スティーヴ・ブシェミ

エルヴィス・プレスリーを輩出したメンフィスの街を舞台に「ファー・フロム・ヨコハマ」「ア・ゴースト」「ロスト・イン・スペース」と3篇の物語が交差する。それぞれが同じ夜汽車を眺め、エルヴィスの“ブルー・ムーン”が流れて夜が明ける一夜の群像劇。



天国の日々

7.14(火)、18(土) 10:30
7.15(水)、17(金) 14:00

1978年/カラー/94分/DCP 監督:テレンス・マリック 出演:リチャード・ギア、ブルック・アダムス、リンダ・マンズ、サム・シェパード

20世紀初頭のテキサスの農場を舞台に、季節労働者としてシカゴからやってきた兄妹と兄の恋人、その雇い主が織りなす愛と憎しみの葛藤を静謐なタッチで描く。撮影の名手ネストール・アルメンドロスによる光の演出が、自然と人間の営みを美しく捉えている。



フロリダ・プロジェクト

7.23(木)、26(日) 10:30
7.20(月・祝)、24(金) 14:00

2017年/カラー/112分/DCP 監督:ショーン・ベイカー 出演:ブルックリン・キンバリー・プリンス、ウイレム・デフォー、ブリア・ヴィネイト

“夢の国”ディズニーワールドに程近いフロリダの安モテルを舞台に、サブプライム住宅ローン危機の余波で厳しい生活を送る母娘と周囲の人々の日常を、6歳の少女の視点から描く。彼らを見守るモテルの支配人をウィレム・デフォーが好演。

世界に影響を及ぼす超大国アメリカ。幾つものルーツ、コミュニティ、文化を抱える多民族国家であり、そして依然、映画大国でもあります。エンターテインメント性の強いアメリカ映画ですが、社会問題や歴史的的事件を取り扱ったドキュメンタリーや社会派映画はもちろん、娯楽大作においてもしばしば社会の実像を描き、アイデンティティを顧みるための“写し鏡”となってきました。

1776年に独立宣言が採択された地・フィラデルフィアで、建国から200年目に誕生した『ロッキー』は、無名ボクサーのサクセス・ストーリーを描いたスポーツ映画という域に留まらない、アメリカン・ドリーム象徴的存在となっていきます。近年ではロッキーの宿敵アポロ・クリードの息子が、アフリカ系アメリカ人のボクサーとして、また現代のブラック・カルチャーを体現する存在として『クリード』シリーズへと継承され、フィラデルフィア美術館前のロッキー・ステップを駆け上がっています。

本展では、映画を通して垣間見えるアメリカ文化——スポーツや音楽、食べ物や乗り物、各都市の風景や伝統などに着目し、アメリカン・シネマを幾つものテーマで横断します。ハリウッドの古典的名作からインディペンデント・シネマの重要作まで、作品ごとに視点が異なれば、見えてくる光景もきっと違ってくることでしょう。一つひとつの“ピース”を見つめ直すことで、現代アメリカへの道しるべとなれば幸いです。

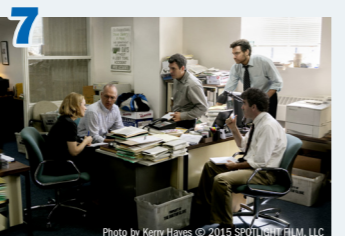
企画展観覧料
一般 300円(210円)、小・中学生 150円(100円)
* () 内は 20名以上の団体
* 鎌倉市民は展示観覧料が無料です。
入館時に住所が確認できる証明書をご提示ください。

映画鑑賞・トークイベント
一般 1300円 小・中学生 650円(展示観覧料含む)

特別上映
一般 1900円 小・中学生 950円(展示観覧料含む)

チケット発売開始日
①～⑦:6月13日(土) ⑧～⑬:7月11日(土)
*友の会会員の方は、電話予約をご利用いただけます。

チケット販売場所
鎌倉市川喜多映画記念館窓口 0467-23-2500
*作品により映像・音声必ずしも良好でない場合があります。
場合によっては上映素材・作品の変更がありますことをご了承ください。
*当館では(4K)と記載されている場合でも(2K)上映となります。



スポットライト

7.22(水)、25(土) 10:30
7.23(木)、26(日) 14:00

2015年/カラー/128分/DCP 監督:トム・マッカーシー 出演:マーク・ラファロ、マイケル・キートン、レイチェル・マクアダマス、スタンリー・トゥッチ

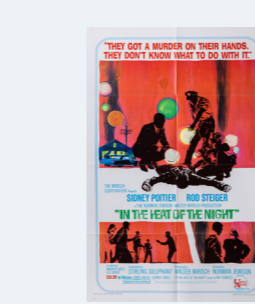
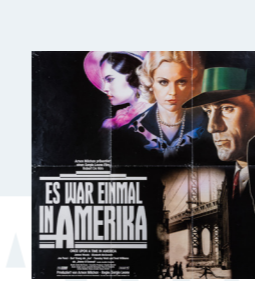
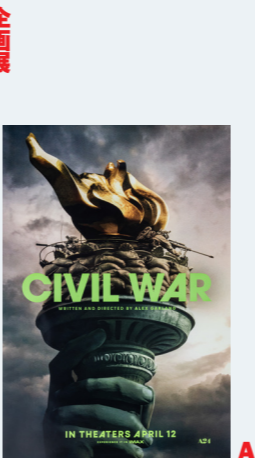
カトリック教会が隠蔽してきた児童虐待のスカンダルを暴き、ピューリッツァー賞に輝いたボストン・グローブ紙調査報道班の記者たちの軌跡を映画化。巨悪に挑む社会派ドラマの名作『大統領の陰謀』を彷彿とさせる生粋のジャーナリスト映画。



*ポスター
A:『シビル・ウォー アメリカ最後の日』(2024) US版
B:『ワンス・アポン・ア・タイム・イン・アメリカ』(1984) 西ドイツ版
C:『グリニッチ・ビレッジの青春』(1976) US版
D:『夜の大捜査線』(1967) US版
E:『天国の日々』(1978) UK版
F:『タクシードライバー』(1976) US版
G:『アリゾナ・ドリーム』(1993) 日本公開版

アメリカン・シネマの

道しるべ



WANDA ワンダ

8.1(土)、7(金) 10:30
8.2(日)、5(水)、8(土) 14:00

1970年/カラー/103分/DCP 監督:バーバラ・ローデン 制作協力:エリア・カザン 出演:バーバラ・ローデン、マイケル・ヒギンズ

ペンシルベニアの炭鉱町に住むワンダ。家庭も仕事も失い、社会から取り残されて崖っぷちを彷徨う姿を切実に描いたロードムービー。ヴェネチア国際映画祭最優秀外国映画賞を受賞。〈忘れられた小さな傑作〉と絶賛され、近年評価が高まっている。



羊たちの沈黙

8.25(火)、28(金) 10:30
8.26(水)、29(土) 14:00

1991年/カラー/119分/DCP 監督:ジョン・ダミー 原作:トマス・ハリス 出演:ジョディ・フォスター、アンソニー・ホプキンス、スコット・グレン

FBI訓練生のクラリスは、ボルチモアの州立精神病院に収監されているレクター博士の協力を得て、連続猟奇殺人事件の解明に挑む。2人の心理的交流と犯罪捜査が並行して描かれ、見事に結実する卓抜なストーリーで、アカデミー賞5部門を制した。



アメリカの影

8.4(火)、5(水)、9(日) 10:30
8.1(土) 特別上映、7(金) 14:00

1959年/白黒/82分/DCP 監督:ジョン・カサヴェテス 音楽:チャールズ・ミンガス 出演:ベン・カラザース、レリア・ゴールドーニ、ヒュー・ハード、アンソニー・レイ

マンハッタンに暮らすアフリカ系の3人兄妹が、白人社会の中で体験する疎外を主題にしたカサヴェテスの監督第一作。従来のハリウッド映画とは一線を画す革新的アプローチで〈インディペンデント映画の父〉と称され、後続の映画作家に多大な影響を与えた。



シビル・ウォー

アメリカ最後の日
8.27(木)、30(日) 10:30
8.25(火)、28(金) 14:00

2024年/カラー/109分/DCP 監督:アレックス・ガーランド 出演:キルステン・ダンスト、ワグネル・モウラ、ケイリー・スピーニー、ジェニー・ブレモンズ

1861年に勃発した南北戦争“The Civil War”ではなく、本作が描くのは極端に分断が進み、内戦が始まった近未来のアメリカ合衆国。戦場の最前線を取材し、NYからワシントンD.C.へと向かうジャーナリストたちを描き、警鐘を鳴らす戦場ドラマの重要作。



ジャグラー

ニューヨーク25時
4K修復版
8.2(日)、8(土) 10:30
8.4(火)、6(木)、9(日) 14:00

1980年/カラー/101分/DCP 監督:ロバート・パトロー 出演:ジェームズ・ブローリン、クリフ・ゴーマン、ジュリー・カーメン、アビー・フルーストーン

愛娘を誘拐された元警官を主人公に、事件発生から決着がつく明け方までの追跡劇を臨場感たっぷりに活写。平穏なセントラルパークでの光景が事件を機に一転、財政危機と治安悪化で失業や犯罪が増加し、荒唐した当時のNYの暗部が暴き出される。



30年後の同窓会

8.26(水)、29(土) 10:30
8.27(木)、30(日) 14:00

2017年/カラー/125分/DCP 監督:リチャード・リンクレイター 出演:スティーヴ・カレル、ブライアン・克蘭ストン、ローレンス・フィッシュバーン

『さらば冬のかもめ』の原作者ダリル・ボニックサンが、その続編として書いた小説を翻案・映画化。かつてベトナムに従軍し痛みを分かち合った3人の戦友が、イラク戦争で息子を失った仲間のために再会し、遺体を故郷へと連れ帰る旅にでる。

トークイベント

2026.7.19(日) 14:00~
トランプ時代とアメリカ映画の行方
——人種、ジェンダー、記憶、越境をめぐる想像力

鈴木 透さん(慶應義塾大学法学部教授)

料金:一般1300円、小・中学生650円
チケット発売日:6月13日(土)

人口構成の変化が進み、絶対多数となる民族集団が消滅する日が近いアメリカ。トランプ政権下の深刻な分断は、今後いっそう求められる「多様な他者の包摂」と「共感の回路の構築」に逆行する危険信号です。この状況下でアメリカ映画は、「何を・どのように・何のために」描こうとしてきたのか? 現代アメリカ映画において「人種・ジェンダー・記憶・越境」といった要素が頻出していることに着目し、未来のアメリカへの眼差しが映画からどう抽出できるのかを探ることで、現代アメリカ映画を何倍も楽しめる方法をお話します。

ゲスト:鈴木 透(すずき とおる)
専攻は、アメリカ文化研究・現代アメリカ論。著書に「スポーツ国家アメリカ・民主主義と巨大ビジネスのはざま」[食の実験場アメリカ・ファーストフード帝国のゆくえ] (ともに中公新書)、「現代アメリカを覗く - 映画が描く超大国の鼓動」(丸善ライブラリー) など。

特別上映

2026.8.1(土) 14:00~
『アメリカの影』+トーク
アートハウス映画も
ポップコーンムービーも
より楽しむために

鈴木里実さん(Stranger番組編成)
降矢 聡さん(グッチーズ・フリースクール主宰)

料金:一般1900円、小・中学生950円
チケット発売日:7月11日(土)

墨田区菊川のミニシアター「Stranger」で特集企画などを担当し、ジョン・ヒューストンやヴィンセント・ミネリ、カサヴェテスなどの監督特集に併せて発行する「Stranger MAGAZINE」の編集長も務める鈴木里実さんと、映画配給や上映イベントの企画・運営を行う「グッチーズ・フリースクール」を主宰し、映画雑誌「ムービーマヨネーズ」や「USムービー・ホットサンド-2010年代アメリカ映画ガイド」(フィルムアート社)などの企画・編集も手がける降矢聡さんに、アメリカン・シネマをさまざまな視点で広めることの愉しさを、「上映+雑誌」のムービー・セットメニューがあることで広がる楽しさをお話いただきます。